

【第3分科会】

# キャラバン企業説明会3年間の成果と今後について ～障害者職業能力開発プロモーターの活用事例～

- 稲垣 良子(名古屋市健康福祉局障害福祉部  
障害者支援課 課長補佐(就労支援の推進))

# 本市における障害者の就労支援の主な取り組み

障害者雇用の推進	工賃・賃金向上の推進
名古屋市障害者就労支援窓口「ウェルジョブなごや」	
<p>企業等に対し、理解促進、業務の切り出し、求人やマッチング等の支援を行い、各企業等における障害者の雇用を支援する。</p>	<p>福祉事業所で働く障害者の賃金・工賃の向上のため、福祉事業所からの相談に応じた支援を行う。</p>
<p>障害者職業能力開発プロモーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等を対象とした、障害者雇用の課題や対応方法等に関する情報交換会</li> <li>・企業と一般就労を支援する福祉事業所との意見交換会</li> <li>・授産製品を発注したい、製作を依頼したい企業と福祉事業所をつなぐなどの、企業と福祉事業所をつなぐ役割も果たしている。</li> </ul>
<p>企業等に対し障害者を対象とした見学会などを実施するよう働きかけたり、市内を回って障害者向けの小規模な合同説明会(キャラバン企業説明会)を定期的で開催したりと、企業等と障害者をつなぐ取り組みを行う。</p>	
<p>就労支援センター</p>	<p>区役所庁舎内での授産製品の販売</p>
<p>障害者に対して就労面及び日常生活上の相談・支援を一体的に行い、障害者の一般就労の促進を図る。</p>	<p>福祉事業所で障害者が製作した製品(授産製品)の販売促進を行い、利用者の賃金・工賃水準の向上を図る。</p>

## キャラバン企業説明会Bタイプとは



\*Bタイプは『企業発見プログラム』

\*移行・A・B・自立訓練から参加

\*午後1:00開始 午後4:00終了

\*1回4社の企業参加で月2回開催



【内容】各社の人事担当者が採用内容を説明、  
質疑応答あり

【補足】企業と支援者との名刺交換時間を確保

【参加者の感想】

就労意欲が湧いた、障害者雇用採用の詳細を知ることができた

## キャラバン企業説明会Aタイプとは



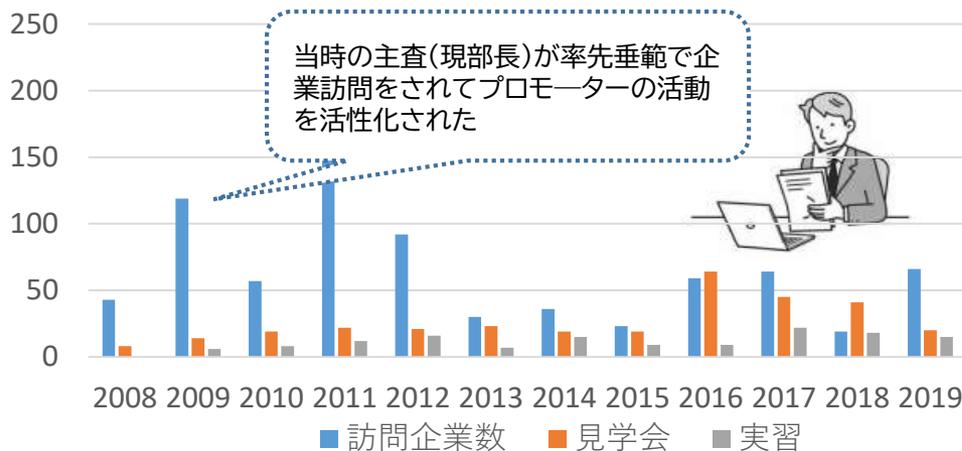
- \* Aタイプは『ディスカッションプログラム』
- \* 事務職フルタイム採用を検討している企業、求職者が参加
- \* 午前9:30開始 午後0:20終了
- \* 1回2社以上の企業参加で開催



### 【内容】

- \* 求職者5人で1チーム×4チームを編成
- \* 正解のない問題に挑戦  
例題:日本の電柱の本数、模擬の採用選考会議、就労準備曼荼羅
- \* 発表者、とりまとめ、タイムキーパー等の役割分担をして議論開始
- \* チームとしての結論をまとめ、全体発表

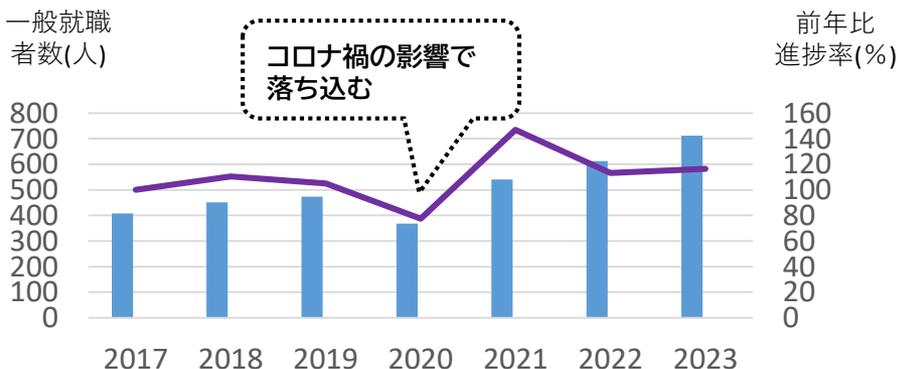
## キャラバン企業説明会のはじまり



(名古屋市調べ)

- \* コロナ禍で外出抑制・活動制限
- \* 歴代プロモーターの実績再評価
- \* プロモーターにより成果に差異

### 福祉的就労から一般就労へ(市内在住者)



- \* 一般就労移行調査にコロナの影響
- \* 説明会の減少や面接会の中止
- \* 求人情報が紙(ネット)ベースのみ

## キャラバン企業説明会のはじまり

企業訪問をする中で  
聞いた担当者の声

- \* 求人を出しても応募がない、知名度が低い？
- \* せっかく採用したのにすぐに辞めてしまう
- \* できれば多くの候補者の中から選びたい



- \* 雇用のミスマッチが起こる原因は情報の量と質の不足
- \* 雇用する側、就労を希望する側のお互いの顔が見える環境が必要

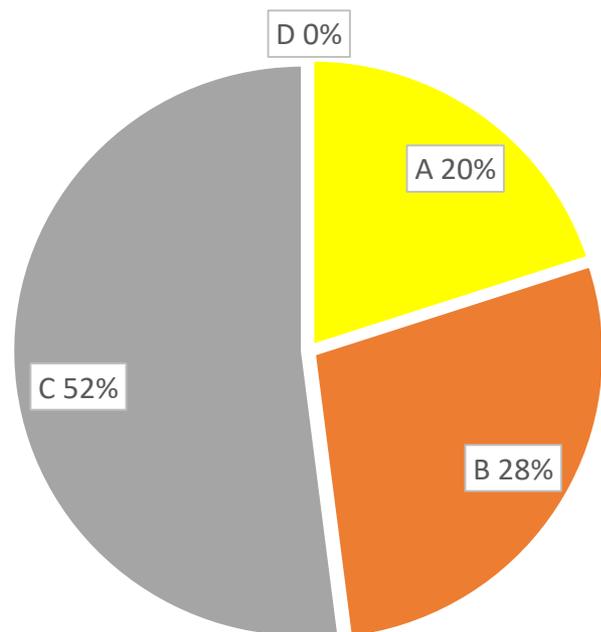
では、行政だからこそできることは……

『知る機会』の創出なのでは！



【参加者(求職者)向けアンケートの結果や参加状況より (1)】

キャラバン企業説明会  
Bタイプへの参加状況



A：参加企業の中に希望企業が出ているから

B：参加企業の中に希望職種があるから

C：自身の知見を広めたいから

D：事業所の訓練プログラムとして

対象：2021.7～2024.6の参加者  
(名古屋市調べ)

プロモーターが成果を感じた  
意見や感想(原文そのまま)

「事務職以外にも興味を持てた」

「直に社長様と話す機会をいただけて、  
心より感謝しております」

「これからは質問できるように学習したい」

「今後も説明会にどんどん参加して行って、  
選択肢を増やしていきたい」

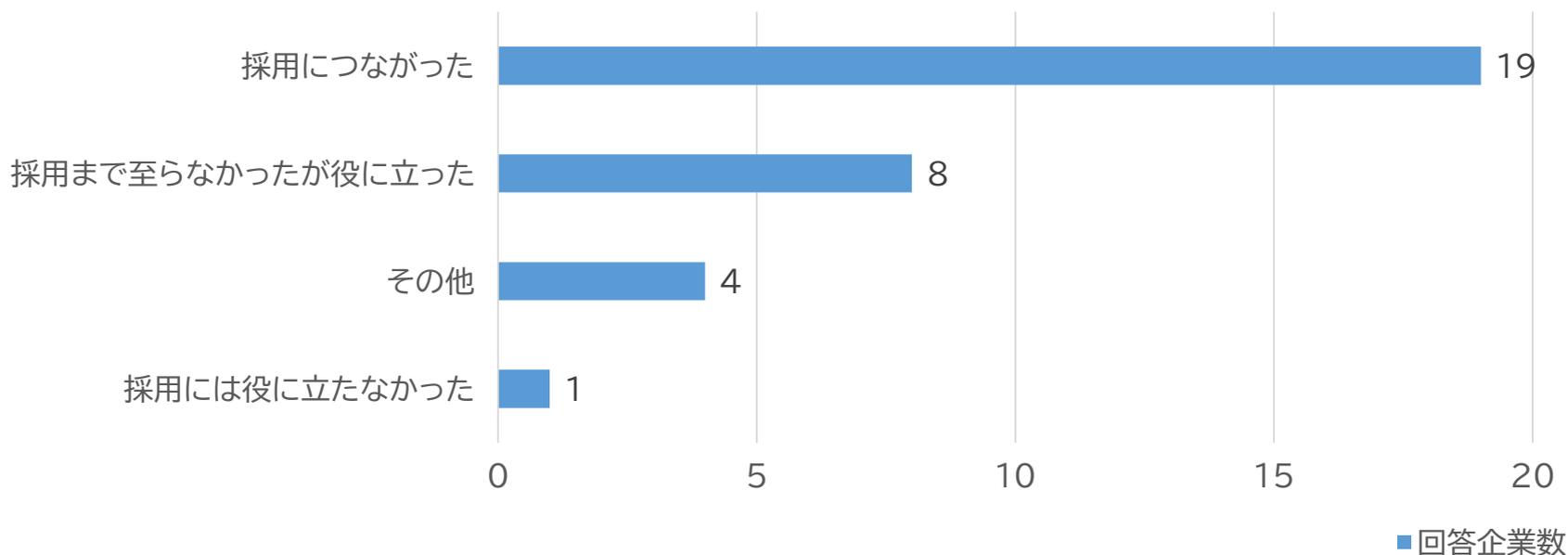
## 【参加者(求職者)向けアンケートの結果や参加状況より (2)】

タイプ	プロモーターが感じた課題	課題への対応策(検討中あり)
Aタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催頻度を増やす、月1回は開催</li> <li>・ディスカッションの経験不足</li> <li>・ディスカッションの進め方</li> <li>・ディスカッション課題の工夫</li> <li>・参加企業の募集方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→スケジュール化を検討中</li> <li>→支援機関での訓練要(支援機関任せ)</li> <li>→時間的余裕のあるプログラム検討中</li> <li>→常に参考冊子等で情報収集を図る</li> <li>→Bタイプ参加企業への勧誘を行う</li> </ul>
Bタイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労意欲の高い参加者を増やしたい</li> <li>・40～60歳代の採用を進める方法</li> <li>・療育(知的)手帳所持者への対象拡大</li> <li>・参加機関の幅を増やしたい</li> <li>・参加企業の募集方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→次につながる機会の提供(見学会)</li> <li>→就業経験の豊富な人材の特集など検討中</li> <li>→障害別特集の検討</li> <li>→ウェルネットなごやにて周知</li> <li>→他機関からの紹介や直接周知の方法検討中</li> </ul>
合同 面談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回は開催したい</li> <li>・面談後のフォロー体制を強化したい</li> <li>・面談時間の取り方</li> <li>・参加企業の募集方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→スケジュール策定(3半期毎に)4・8・12月</li> <li>→その後の進捗の把握方法を検討</li> <li>→1人あたり15分から20分に延長</li> <li>→キャラバン参加企業への勧誘を行う</li> </ul>
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援機関の支援者のレベルアップが必要</li> <li>・運営側の体制強化</li> <li>・企業とのネットワーク構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→今後の動きに期待</li> <li>→委託事業先と連携、マンパワーが必要</li> <li>→定期的な情報交換(方法)につき検討中</li> </ul>

## 【参加企業向けアンケートの結果より (1)】

### Q.採用活動に役立ったか。

(企業向けアンケートより)  
 実施期間:2024.9.9~9.20  
 対象:過去の参加企業121社  
 回答:直近1年以内の参加企業を中心に  
 32社からの回答



\*「その他」の内訳:4社ともに、現在実習中、選考中なので、何とも回答できない

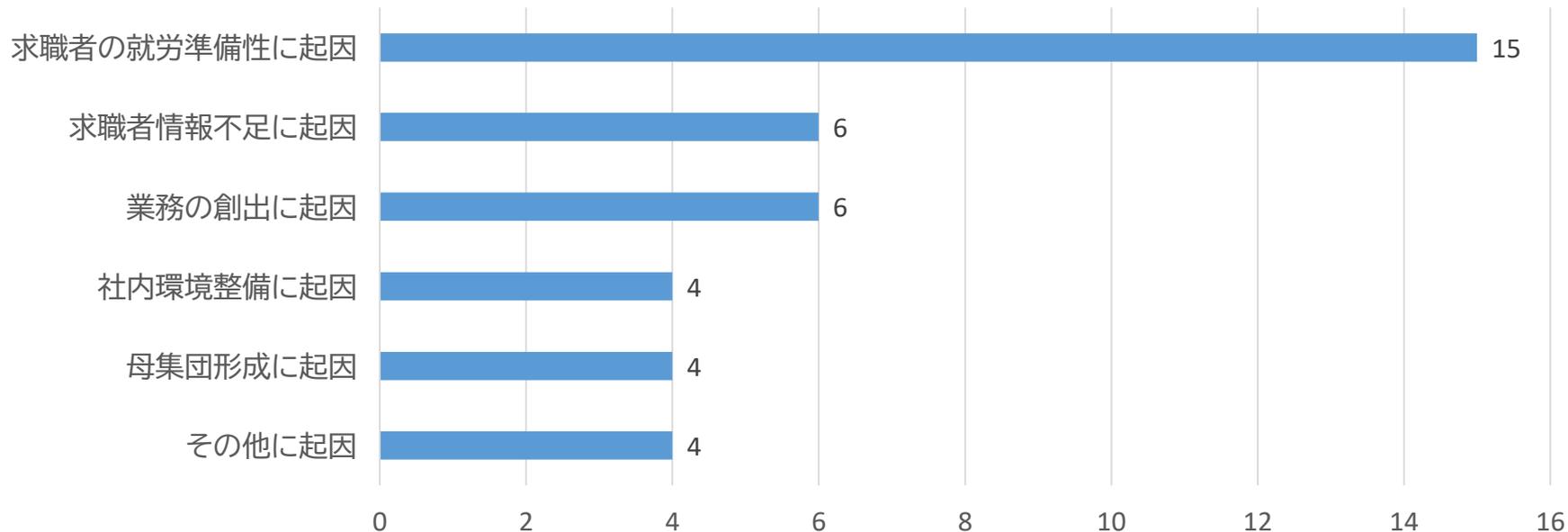
\*「採用には役に立たなかった」:アンケート時点では、未だ採用に至っていなかった

⇒企業と求職者との接点(機会の創出)として、一応の成果は出せている

## 【参加企業向けアンケートの結果より (2)】

Q.障害者雇用を行う上で、  
困っていること・課題と感じていることは何か。

(企業向けアンケートより)  
実施期間:2024.9.9~9.20  
対象:過去の参加企業121社  
回答:直近1年以内の参加企業を中心に  
32社からの回答 複数回答あり



■ 回答案件数

\* 志望動機の納得性に乏しい、本人の希望と実際にできることとのミスマッチ

\* 就労移行支援事業所に通所されていても、応募の段階で就労準備性が十分整っていない

\* 障害に対する情報通知(病状や通院状況、適性など)が、不十分な場合が多い

⇒ 求職者や支援機関の就労準備性(アセスメント)に対する課題が顕著に現れた

**目的： 障害者が自身の望む就労を行うこと**  
**手段： 進化し続ける『キャラバン企業説明会』の継続**

プロモーターには、過去15年以上の歴史の中で、  
800社以上の企業との接点がある

しかし、担当者同士の関係性だけだと、担当が替わることで  
企業との関係性も終了してしまう危険性がある

企業、求職者の双方から「必要！」と思われ続けるような企画内容が必要

参加企業、参加求職者を惹きつけるためには、  
常に改善したり工夫したりし続けることが必要

地域に根差す行政機関だからこそできることはなにか  
模索と情報発信が必要

名古屋市健康福祉局障害福祉部障害者支援課  
電話：052-238-0572(分室)  
Mail: a2659@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp  
※お気軽にお問合せください